令和4年度 奈良県立二階堂高等学校 学校評価総括表（年度末報告）

【高等学校用】

年度	令和4年度（中期計画Ｉ年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	将来のなりたい自分を実現させるため、主体的にキャリアデザインに取り組む人材を育成します。また、地域を題材としながら、社会人基礎力を高め、社会に貢献する人材を育成します。
年度重点目標	・評価と指導の一体化を意識したキャリア教育を推進する。 ・コロナ禍における地域協働の再構築を進める。 ・ＩＣＴを活用し対話的で探究的な学習活動を充実する。 ・主権者教育、消費者教育、金融教育を進め社会人としての素養を高める。 ・コミュニティースクールの強みをいかし、地域・保護者を巻き込んだ教育活動を行う。

Ｉ スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	本校のスクールポリシーを理解し、その実現に向けて意欲的に学ぶ人を受け入れます。 １　将来の夢をもち、自身の判断と責任において未来を切り拓こうとする人**《自己理解》** ２　様々なことに関心をもち、主体的に学習に取り組む人**《自己理解・学校理解》** ３　自らの能力を向上させるため、意欲的に課外活動（部活動・資格取得講座・進路セミナー・インターンシップ等）に取り組む人**《学校理解》** ４　社会の一員として自覚ある行動をとり、地域社会に貢献したいと考えている人**《社会人基礎力》**
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	自分のキャリアデザインを実現させるため、社会人基礎力を身に付けさせます。主体的に知識・思考力・判断力・表現力を身に付けさせるとともに、多様な人々と協働するためにコミュニケーション能力を向上させます。また、地域社会が抱える課題の発見や解決に向けての探究活動を通して、本校での学びが卒業後にどう生かされるのかを理解させます。 １　既存の科目にとらわれない多彩な学校設定科目を設定し、生徒一人一人の進路希望に応じて必要な科目選択ができるようにします。 ２　主体的に物事に進んで取り組むことができるようインターンシップをはじめ、数々のキャリアプログラムを提供し、学びに向かう力を育てます。 ３　自分の考えを適切に表現し、論理的思考力を身に付けるために、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れた対話的で深い学びを展開します。話的で深い学びを展開します。 ４　課題に対し、収集した情報を整理・分析するとともに、知識を活用して論理的に考察し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を身に付けます。 ５　探究活動を通して、地域社会の課題発見や解決に向けて、多様な人々と協働して取り組む力を育てます。 ６　教育活動において、自身の立場・役割を理解し、規律ある学校生活の中で、目的意識をもって行動できるよ う育成します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	本校では、以下の資質・能力を身に付けた生徒に卒業を認定します。 １　社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身に付けている。 ２　広い視野をもって、人生100年時代に向けてのライフプランをもっている。 ３　コミュニケーション能力を高め、異なる考え方や文化を尊重することができる。 ４　課題を発見し、自ら解決しようと取り組むことができる。 ５　情報を活用し、幅広い視点で物事を考え、状況に応じて柔軟に対応することができる。 ６　自己の能力・資質を社会生活で活用し、社会の持続的な発展に貢献することができる。

２ 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	望ましい運動習慣の確立	授業以外で週に1時間以上の運動時間が確保できている生徒60%以上	昼休みや放課後に運動施設を開放する。 １時間以上の運動時間が確保できている生徒２０%以上(登下校時の移動を除く)	1日の運動実施時間１時間以上の生徒は30%。参考データ(７月時点)として、一週間に１日以上運動している生徒は、52%。	昼休みや放課後における運動施設の開放は、コロナ禍の影響や校内の実情を考えて、開放には到らず、運動を推進していく環境が整えられていないのが現状である。	基本的生活習慣の確立、規範意識の向上においてはよりいっそう、家庭との連携による指導に努めていただきたい。	部活動の活性化を目指す取組として、「クラブ員集会の定期的な開催」を実施する。また、コロナのガイドラインを遵守しながら、昼休みや放課後の運動施設開放の幅を広げていく。 朝食の意義については、ＨＲや保健の授業でも展開する。またＰＴＡ役員会で議案として取り上げていただく。
	運動能力の向上	新体力テスト全国平均を上回る種目が4種目以上	新体力テスト校内平均を全種目で昨年度より上回る	昨年度と比較して、全８種ものうち、２年生男女で１種目ずつ、３年生男子で５種目、３年生女子で４種目、上回った。	今年度は新体力テストに向けての事前指導が不十分なまま測定の日が設定されているので、目標の数値にはまだまだ届いていない。来年度からは、体育の授業内で十分に指導をした上で測定をし、目標達成を目指す。		
	望ましい食習慣の確立	朝食摂取率80%以上	朝食摂取率「毎朝食べる」生徒、60%以上	食に関する意識調査より、「毎朝食べる」生徒は50.9%	ほぼ毎月発行している保健だよりでは、食育に触れてはいるものの、家庭との連携は十分には取れてはいない。ＰＴＡに協力を依頼するなど、来年度摂取率が上がるよう取組を増やしていく。		
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	学習意欲の向上と自立した主体的な学びの実現	各種検定合格者70%以上	セミナー・面談等を通して各種検定に対する生徒の意識向上に対する取組を進める、３年生の検定合格者５０%以上	学校全体で、資格・検定の取得をすすめた。３年生の取得率は５６%であった。	進路実現に向け、３年次に検定合格を目指す生徒が多数見られた。１年次から計画的に取り組んでいく必要がある。	放課後の補習やＩＣＴ機器を使った授業展開を進めるなどの取組は評価できる。	「産業社会と人間」の教材（学習ノート）は、目標達成を意図した内容に刷新する。なお、「産社」と「社基礎」の一貫性及び系統性の深化を図る。あわせて、生徒の意識深化を評価（把握）する仕組みも取り入れる。
	SDGｓを念頭に置いた地域社会に関する探究活動の実践	対話的で深い学びと協働による探究活動の実践	「産業社会と人間」「社会人基礎力」等を通し多様な人々と協働して取り組む力を育てる。	２年次「社会人基礎力」の授業では、SDGｓについて学習し社会とつながっていることを実感し、より深く社会を知ることができた。	「産業社会と人間」「社会人基礎力」を通して、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を育成した。参考資料「キャリアデザイン科の学びを振り返って」		
	教職員の授業力向上ならびにキャリアアップ	Off-JTによる研修参加率80%以上	新学習指導要領の実施に向け授業力を向上する Off-JTによる研修参加率80%以上	43名の内31名がOff-JTによる研修に参加した。参加率は72.1%である。	観点別学習状況の評価の実施等により、教員の授業力向上の意識が高まっている。		
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	学校設定科目「産業社会と人間」を充実させる	自己理解・インターンシップを実践した上での職業理解に基づくライフプランの作成	「産業社会と人間」について理解する。自己を見つめインターンシップを通して職業について考える。	学年の教員で方向性やビジョンを共有し進めた。生徒は自己理解・職業理解に基づきライフプランを作成した。インターンシップは新型コロナにより実施できなかった。	２年次以降の「社会人基礎力」の授業や就職・進学、「10年後の自分」へと繋げていくため、見直しを行い、次年度へ繋げたい。	進路先での適応能力を高める指導はすばらしい。１年生の時からキャリアデザインに対する姿勢を育てていただきたい。	専門家や学識経験者等の招聘、就職や大学進学１，２年経過の卒業生招聘は行っているが、「10年後」の視点で卒業生を招き在校生と交流する機会の創出を検討する。
	多彩なキャリアプログラムの提供	就職内定者研修の実施等により、1年以内の離職率 ６%以下	進路選択のミスマッチを防いだ進路保障につとめる。 令和４年度就職者の1年以内の離職率10%以下	令和４年度の就職合格者は34名であった。入社してから環境に適応するための内定者研修を行った。離職率を来年度調査予定。	多彩なキャリアプログラムにより、主体的にキャリア（人生）デザイン（設計）に取り組む人材を育成した。進路未定者が課題となる。		
	キャリアコンサルティングの充実	1年時よりキャリアに関する面談を生徒1人あたり年間６回以上実施	学期当初面談、三者懇談、系列・科目選択面談等を生徒1人あたり年間10回以上実施生徒理解と可能性を伸ばすキャリア教育の推進	3学年計15クラスの生徒徒1人あたりの面談回数の平均は10回である。	生徒の状況を把握し、良いタイミングで効果的な面談が実施された。		
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進	学校運営協議会の年３回以上開催	学校運営協議会の年3回以上開催	１学期は開催。２学期は出席者が過半数に満たず中止。３学期は３月に開催予定。	委員の大半がフルタイム職に就いているので、平日開催の協議会に全員が揃いにくい。開催方法を検討する必要がある。	「二階堂フェスタ」や「校内イルミネーション」が地域に期待される恒例行事となりつつあることはすばらしい。よりいっそう地域に根ざし、地域と共に育つ活動をお願いしたい。	学校所在地の「荒蒔町」の清掃活動について、高校生の参画を明確にする趣旨で、年間行事計画表に盛り込む。
	地域と協働した探究的な学びと地域創生	地域にとっての魅力化を図り、地域でのアンケートにおいて満足度80%以上	地域にとっての二階堂高校魅力化を図り、地域の方へのアンケートにおいて満足度80%以上（秋冬の二階堂フェスタ等でアンケートを実施）	11月の二階堂フェスタ、12月の校内イルミネーションにおいて、出口調査を行ったがアンケートで満足度は100%であった。	二階堂フェスタでは、さらに地域の方々と連携を深める必要がある。校内イルミネーションは、毎年同じ内容だとマンネリ化するため、よりブラッシュアップさせたい。		
	地域の教育力（資源）の活用	地域事業所・人材を全学年・全学期で複数回活用する	地域事業所・人材を全学年を通して各学期に1回以上活用する	今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、地域事業所・人材を活用するが目標を達成できなかった。	次年度以降、ここ数年減少していた地域事業所への訪問や、地域の人材を招いての講演等を増やしていきたいと考えている。		
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	誰も取り残さない取組の実践するため、生徒情報の共有化等の組織的体制づくりを完成させる	個人面談やアンケートを活用し、早期発見に努め、定期的に対策会議を実施する	日々の声かけ・個人面談・アンケートを通して「冷やかし」、「ＳＮＳ上での誹謗中傷」の、いじめを４件認知した。	加害生徒への指導と被害生徒への見守りを丁寧に実施し、いじめの解消に取り組んだ。	ネットにおける人権問題は、社会全体の問題となっている。リテラシー教育をいっそう推進していただきたい。特別支援教育の重要性は高まっており、しっかりと取り組んでいただいているが、よりいっそう丁寧に進めていただきたい。	「交流会」など行事として位置づけている取組に限らず、登下校や昼休み、放課後の活動などの日常的交流について、コロナのガイドラインを遵守しながら、その幅を広げ、繋がりを深める。さらに、生徒の意識深化を掌握する取組導入も図る。
	インクルーシブ教育の推進	高等養護学校分教室との日常的交流と合同行事の定期的開催	高等養護学校分教室との交流会を年間5回実施	交流委員による交流会を年間3回実施した。第3学年においては人権作文発表会を合同で実施し、交流委員が中心となり、共に準備・運営を行った。その他行事や授業等を合同で実施し、交流をした。	目標回数には達しなかったが、分教室と連携し、分教室との交流会や行事等を概ね有意義に実施できた。今後は交流委員からの発信機会を増やし、両校の生徒同士の繋がりを深めていきたい。		
	人権教育学習資料の活用	「なかまとともに」を活用したLHRの実施	「なかまとともに」を資料とした人権HRを各学年年間5時間実施	年度当初にクラス担任に「なかまとともに」を資料として使用できるように配布し、人権HRを各学年年間5時間実施した。	現状SNSの使用状況など、課題は多く、生徒の実態に合った人権学習資料を今後も検討し、生徒の人権意識を高めていく必要がある。		

３ 評価結果の分析、今後の改善方策等

令和4年度保護者アンケートにおいて、学校満足度として「本校に入学させてよかった」の割合は、「よく当てはまるは45．0%」「やや当てはまるは43．8%」であった。